

- 秋田県では、「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用により、林業の成長産業化と森林の多面的機能の持続的発揮の両立を目指している。今後素材生産量の増加や再造林の拡大が見込まれる中、林業の担い手の育成・確保が喫緊の課題となっている。
- このため、高性能林業機械による低コスト生産から木材販売・利用、森林資源の造成までをマネジメントできる若手技術者の育成に向け、林業トップランナー養成研修を実施している。
- 年18名の新規研修生を受け入れ、地域林業を支える「若い林業技術者」を養成し、秋田県の林業の振興を図っていく。

□ 事業内容

「オール秋田で育てる」林業トップランナー養成事業

- ・ 秋田林業大学校において、就業前の林業未経験者を対象に、幅広い知識・技術とマネジメント能力等を習得するための研修を実施。

【事業費】 39,553千円（うち譲与税26,894千円）

【実績】 森林・林業の知識や森林の造成・生産・利用の技術を習得するための講義及び実習を各学年1,200時間実施。

□ 取組の背景

- ・ 秋田県の素材生産量の目標 R2 1,425千m³ → R7 1,900千m³
- ・ 新規就業者数は年130～150人程度を維持しているものの、林業雇用労働者のうち60歳以上の割合は依然3割を超えている。



（機械操作実習）



（ドローンによる森林調査研修）

□ 工夫・留意した点

- ・ 基本的な知識や技術については県職員が講師となって講義や実習を行うが、高性能林業機械を導入した低コスト生産システムやドローンを活用した森林管理等のより専門的な知識や技術については、サポートチームをはじめとする各業界のプロが外部講師となって研修の充実を図った。

□ 取組の効果

- ・ 林業未経験者である研修生29名（1年生11名、2年生18名）に対し研修を実施し、若い林業技術者の育成を図った。
- ・ 研修生（2年生）18名が林業分野へ就業した。

森林組合	7名
林業事業体	11名

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：147,276千円	②私有林人工林面積（※1）：176,572ha
③人口（※2）：959,502人	④林業就業者数（※2）：2,235人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より